

米沢城(舞鶴城, 松ヶ岬城) (県史跡, 続百名城) (米沢市丸の内) (上杉神社)

米沢城（よねざわじょう）は、山形県米沢市丸の内（出羽国置賜郡）にあった中世から近世にかけての日本の城（平城）である。江戸時代は米沢藩上杉氏の藩庁および、二の丸に米沢新田藩の藩庁が置かれていた。

概要

城は米沢市街地のほぼ中心に位置する。戦国時代後期には伊達氏の本拠地が置かれ、伊達政宗の出生した城でもある。江戸時代には米沢藩の藩庁が置かれて上杉景勝・上杉鷹山などの歴代藩主が居住した。輪郭式に本丸から外側へ二ノ丸、三ノ丸を構え、10基の櫓と17棟の門が開かれた。上杉氏築城当時30万石の大名の居城であって、石垣や天守は構えられず、土塁を築き本丸に2基の三階櫓を建てて天守の代用としていた。

現在、本丸跡は上杉神社の境内となっており、また、二の丸跡には米沢市上杉記念館（旧・上杉伯爵邸）がある。

また米沢図書館には享保10年（1725年）と文化8年（1811年）の米沢城城下絵図が所蔵されている。

歴史・沿革

鎌倉・室町・安土桃山時代

米沢城が最初に築かれたのは、鎌倉時代中期の暦仁元年（1238年）と伝えられる。鎌倉幕府の重臣・大江広元の次男・時広が出羽国置賜郡長井郷の地頭として赴任した際に築城されたと推定されている。時広は赴任地の地名から長井姓を名乗った。以後、長井氏の支配が150年近く続いた。

8代広房は室町時代初期（天授6年（1380年）、応永9年（1403年）、応永20年（1413年）などの説がある。）に、伊達宗遠に侵略されこの地を追われた。以後、安土桃山時代までここは伊達氏の支配下に入った。天文17年（1548年）伊達植宗・晴宗父子の対立である天文の乱を経て、晴宗は本拠地を桑折西山城より米沢城に移した。

天正17年（1589年）政宗は蘆名義広を破り、蘆名氏を滅亡させると黒川城に本拠を移し、晴宗の弟にあたる宗澄について宗清を城代に据えた。しかし、豊臣秀吉はこの会津攻略を認めず政宗から召し上げたため、翌年には本拠を米沢に戻すことになる。天正19年（1591年）政宗は豊臣秀吉の命により岩出山城に移った。

置賜郡は伊達氏代わって会津に封ぜられた蒲生氏郷の支配するところとなり、重臣・蒲生郷安が米沢城主となった。郷安はこの時、城の改修を行っている。文禄年中に白子神社が米沢城鎮守となる。慶長2年（1597年）氏郷の子、秀行は下野国宇都宮に移封となり、会津には越後国より120万石で上杉景勝が入封し、米沢城主には重臣・直江兼統を置いた。

江戸時代

慶長5年（1600年）秀吉の死後、豊臣氏への恩義から徳川家康の専横を「直江状」という文書によって弾劾し徳川氏への宣戦布告に及んだ。結果的に西軍方となった上杉氏は、関ヶ原の戦いには参戦していないが西軍の敗戦により、置賜地方と陸奥国伊達郡・信夫郡30万石に減封された。以後、明治維新まで米沢藩上杉氏の居城となった。

慶長13年（1608年）景勝は兼統に命じ城の大改修を行い、慶長18年（1613年）輪郭式の縄張りを持つ城が完成した。本丸には藩主の御殿と、米沢上杉氏の祖である上杉謙信の遺骸を上杉氏の本拠であった越後春日山城から移して安置し、祀った御堂が南西隅に置かれ、天守の代わりに三階櫓を2基置いた。二の丸には藩の役所、世子御殿、御堂に近侍する真言宗の寺院群と塁上には二重櫓が置かれた。三の丸には侍屋敷が配置され、町人町は城外に置かれた。石垣は用いずに土塁を多用し、全体的に質素な城となった。これは120万石時代の家臣をほとんど削減しなかったため、財政が逼迫していたことによるものとされるが、

上杉景勝が会津で建設を目指していた神指城も米沢城と同様の縄張で、土塁を多用した造りである。これは春日山城の麓にあった関東管領邸である御館にも共通した特徴であり、上杉氏の本拠地としての伝統的な城館建築の造りである。

寛文4年（1664年）3代綱勝が嗣子を定めないまま急死し、綱憲が末期養子として認められ藩は存続したが石高は15万石に半減された。しかし、石高が減ったのに、藩士の召し放ち（解雇）が行われず、藩の財政は更に逼迫することとなった。城外には新たに原方と呼ばれる地域を設置し、城下に収容できない下級藩士を配置し、半農生活を営ませた。しかし、9代治憲の藩政改革で財政の再建を果たした。なお治憲の隠居所である餐霞館は三の丸にあるが、これは支候御殿を転用したもので、治憲死去後に支候御殿に戻る。戊辰戦争では、藩が改易される窮地を救った会津藩主保科正之への恩義もあることから奥羽越列藩同盟に加わった。

近現代

明治4年（1871年）廃藩置県により米沢県が置かれた。明治5年（1872年）最後の藩主・斉憲は、城内にあった謙信の霊屋（御堂）を鷹山とともに合祀し上杉神社とした。明治6年（1873年）には城の建物が全て破却された。二の丸にあった藩の政庁はそのまま郡役所、町役場（後に市役所）として利用した。

明治7年（1874年）には城跡は松が岬公園として市民に一般開放された。明治9年（1876年）、謙信霊柩は上杉家廟所へ、上杉神社を現在の地である本丸跡に移した。明治29年（1896年）二の丸跡に上杉家14代当主・茂憲伯爵邸が建てられた。明治35年（1902年）上杉神社が別格官幣社となったのを期に、鷹山を摂社・松岬神社（本丸の東隣、世子御殿跡）に分祀した。大正8年（1919年）米沢市内は米沢大火に見舞われ、上杉神社・伯爵邸にも類焼した。現在の神社社殿は大正12年（1923年）に再建されたものであり、伯爵邸も大正14年（1925年）に再建され鶴鳴館（かくめいかん）と呼ばれた。昭和25年（1950年）伯爵邸が上杉家から米沢市に譲渡され、翌年より中央公民館として利用された。昭和54年（1979年）公民館から上杉記念館に改変され郷土料理の提供や資料の展示が行われている。平成9年（1997年）伯爵邸は登録有形文化財となった。

考古資料

遺構

本丸にあった上杉謙信を祀る御堂（みどう）が、長命寺の本堂として移築され現存する。また、東大手門の礎石が現在市内川井に石碑となっている。

Wikipedia による



にしましろう
にしましろう
帰しましろう

